



7月より、当院に入職された脳神経外科 富田医師に、
今までの経験や、今後の当院での展望についてお話を伺いました。

脳神経外科医
富田 雄介(とみた ゆうすけ)

2007年、北里大学医学部卒業。
2008年、東京通信病院脳神経外科入局に入局、
帝京大学医学部附属溝口病院を経て、
2025年7月に大田池上病院へ入職。

- 日本脳神経外科専門医
- 臨床研修指導医
- 日本DMAT隊員資格



——先生はこれまで、どのような患者様の治療に携わってこられたのでしょうか？

一番診てきたのは、脳腫瘍です。脳外疾患を全体的にやってきましたが、サブスペシャリティとして、脳腫瘍は最も興味があります。疾患の数としては、頭部外症や脳卒中と比べて少ないのですが、脳腫瘍は手術になることが多く、周術期の管理や、後療法としての抗がん剤、放射線治療が必要なケースもあります。そういったところも含め、一番興味がある疾患です。

——こういった年齢層の方を診てこられましたか？

脳外科もやはり多層性、色々な年齢層がありますが、高齢者の方が圧倒的に多いです。生活習慣や加齢に伴って脳の血管が痛み脳卒中になるからです。脳腫瘍もやはり高齢者の方が多いです。ただ、若い人でも脳腫瘍はありますので、そういった方にも関わってきました。今でも外勤先の外来で、そういった方のフォローをしています。

性別による特徴で言えば、例えば下垂体腫瘍によってプロラクチンというホルモンが増加することもあり、女性だと不妊や月経困難の原因になることがあります。そういった、婦人科的な要素に対応することもあります。また、がんの脳転移であれば、肺癌は呼吸器科など、多くの先生と関わってきました。大田池上病院は、時間外も整形外科の先生がいるので、私も頭部外傷を受けるにあたって心強いです。なので、多くの科と繋がる幅広さはあると思います。

———今後は、どのような患者様の治療を想定されていますか？

主に頭痛、眩暈、頭部外傷、脳卒中でも保存適応のものや、てんかん発作などです。救急隊の受入も含めて、対応させていただきます。

———意識障害を伴う場合も、対応可能でしょうか？

はい、対応させていただきます。先に挙げた疾患は、全て意識障害を伴うことがあります。状況によって転送もありえますが、まずは、当院で初療をして容体を安定化させることを目指します。

———大田池上病院では、具体的にどういった検査が可能でしょうか？

頭部のCT、MRI、脳外科らしいところでは髄液検査も可能です。CTでは微妙に分からないレベルのくも膜下出血、髄膜炎、正常圧水頭症等の診断に使います。時折、正常圧水頭症疑いの方に対し、症状の改善状況をチェックすることもあります。髄膜炎など、本来は脳神経内科の疾患ではありますが、脳外科とリンクするところもあります。まずは、ご相談ください。

———治療の際に、先生が心掛けていることはありますか？

患者様との接し方、よく話を聞くということです。患者様の話に傾聴して、その人が何を一番訴えたいのかを、よく探るよう心掛けています。そうすれば、患者様本人の要望に応えていけるのではないかと思います。本当に緊急で必要な場合に治療の提案をする時も、患者様の意思を確認し、一方的にならないように気を付けています。

———最後に、大田池上病院の強みは何だと感じますか？

先程の検査に関わることで、読影の先生は本当に頼りになります。私は、頭以外は読影医頼みなので。

逆に、頭のことで他の先生から質問を受けることもあります。先日も、消化器内科の先生から脳幹梗塞の方の相談いただきました。先生方は、とても患者様のことを良く診ていらっしゃると思います。

私も、前任の脳神経外科の先生の貢献に恥じぬよう、地域医療に努めて参ります。近隣医療機関の皆様には、今後とも宜しくお願い致します。

脳神経外科は、以下のお時間で外来診療を行っております。

緊急の受診、入院相談の場合には地域医療連携課へご連絡ください。

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:30	○	—	—	○	○	—